



希望が丘体育祭の代替行事が決まりました



<昨年度のソーランの様子>

4月10日付け保護者あて文書で、本年度の希望が丘体育祭の中止をお知らせしましたが、その中で「感染が終息するとともに、学校・学年団行事等の都合がつけば、平日の午後、学級対抗生徒会種目と併せて、ソーラン、ダンスの学習発表会を行うことを検討しています」としていました。

残念ながら、まだ新型コロナウイルス感染症は終息していませんが、警戒レベルの一段階引き下げなどの状況を考慮し、10月28日(水)の午後、代替行事を行うことにしました。先日ご案内の文書を配布しましたが、感染拡大防止のため、参観は3年生の保護者に限定させていただきます。必ずマスクの着用をお願いします。また、

来校者を確実に把握するため、ピロティと新体育館前の2ヶ所で受付を行いますので、ご協力をお願いいたします。この代替行事では、通常の体育祭のように、学校・学年全体で練習や準備することはありませんので、体育科のソーラン・ダンスは通常の体育授業だけでできたものを発表します。また、準備等の簡略化を図るため、生徒・保護者ともに、テントや座席を準備しません。写真撮影などはかまいませんが、保護者同士が密にならないようご配慮ください。なお、参観できない方のために、当日の様子を撮影したDVD・Blu-rayの販売を行う予定です。

苦手教科 放っておかないで何とかしよう

2学期中間テストが終わりました。まだ全てのテストは返ってきていないと思いますが、結果はどうだったでしょうか。自分ではがんばったつもりなのに、点数がよくなかったという人もたくさんいるはずですよ。2・3年生はすでに気付いているように、「勉強しやすい、勉強する意欲がわく」という教科がある一方、「やる気にならない、勉強していてもすぐわからなくなってしまう」という教科もあります。多くの場合、成績がよい教科が得意、悪い教科が苦手となってしまうがちですが、1年生も、そろそろ得意・不得意(苦手)教科が分かれてきているのではないのでしょうか。

得意・不得意(苦手)はあってよいものです。というか、誰にでもあります。まずは、そのことを受け入れることが大切です。たまに何もかもできそうな(と思い込んでしまう)人もいますが、ある東大の先生は「そんな学生にお目にかかったことはない」と断言しています。学校の勉強に限らず、人はそれぞれ得意なことが違うので、自分に合ったジャンルを見つけて、自分に合った方法で力を発揮すればよいのです。

とはいえ、学校の成績、高校入試などのことを考えると、このまま放っておけないよな、何とか克服したいなと思っている人も多いと思います。もちろん「こうすればよい」という特効薬はありませんが、苦手教科克服の第一歩を踏み出すための3つのヒントを紹介します。これらの方法は、過去に私が担任していた生徒で、苦手教科を克服した(そう思われるくらい成績が向上した)生徒に教えてもらったものですが、もしこれ以外にもよい方法があれば、教えてください。みなさんの後輩にも紹介していきます。

① その教科の勉強が、実生活の中でどのように役立つのか、先生に聞く。本・ネットで調べる。

みなさんの実生活に役立ち、必要だからこそ、学校で教科として勉強するのです。その教科の勉強が、身近なところで役立っていることば分かれば、勉強しがいがあります。

② その教科が得意な人に、得意な理由や勉強方法を聞いたり、休日に一緒に勉強したりする。

得意な人のノートを見せてもらう。勉強法を聞いてまねをする(ex. 歴史の年代を覚えるときは、一定のリズムで歩きながら暗記した!)。クイズ形式で問題を出し合い、正解数を競うゲームにする。

③ 苦手教科を一番先に勉強し、得意教科を後にする。苦手教科の教科書・ノートは必ず音読する。

苦手教科を勉強していると眠くなる人が多いようです。声を出すことにより、眠気を防止するだけでなく、脳の働きを高め、やる気を出すことにつながります。